

2023年4月ハイパーカレンダーレポート

2023年4月15日、また日本国内で信じられないような事件が起きた。岸田文雄首相が和歌山市内の漁港を選挙応援で訪れていたところ、演説直前に爆発物が投げ込まれたのである。首相は現場から避難してけがはなく大事にいたらなかったものの、警察官1人と聴衆の1人が軽い怪我を負った。兵庫県に住む24歳の容疑者を威力業務妨害の疑いで、警察がその場で逮捕した。同じく選挙応援において、昨年7月に奈良市で銃撃されて死亡した事件の記憶がまだ残っているさなかの出来事である。今回は拳銃ではなく爆発物であったものの、アメリカと比較して圧倒的に安心安全であるはずの日本、今回の首相を狙った行為は、いかなる理由があっても許されるものではない。一方、広島でのG7に向けて、16日からは長野県軽井沢町でG7外相会合が開かれた。ロシア軍のウクライナからの即時撤退、中国の力や威圧による一方的な現状変更の試みに強く反対することを盛り込んだ共同声明を採択した。昨年5月にスウェーデンとともにNATO加盟を申請していたフィンランドの正式加盟が決定した。ロシアとしては国境を接するだけに穏やかではないだろう。

ハイパー研では先月3月29日に設立30周年記念のための第85回ハイパーフォーラムを開催した。テーマは「ハイパー研ビジョンを考える」である。そのためにまずは講演「30分で分かる情報社会学：概論編」を講師：山内康英氏（多摩大学 情報社会学研究所 教授・所長代理）にお願いして、ハイパー研設立の嚆矢となる学びを行った。それを受けて高校生も交え、これからの30年に向けて、どのようなビジョンを持つべきかと議論した。以下の通り有意義なキーワードを得られたので、今月4月からの新年度では、ハイパー研の新たなビジョンとミッションを掲げたいと考えている。

- ・ 情報社会の平和と平等
- ・ コミュニケーションや人との繋がり
- ・ 地域情報化のパイロット
- ・ 世代拡大
- ・ ハイパーネットワーク社会の様々な新しい分野の目利き
- ・ 同時にビジョンを作るビジョナリー
- ・ 世界を巻き込んでのハイパー研の進化

毎年度、大小30程度のプロジェクトを実施するのだが、そのほとんどは官公庁からの公共事業で、いずれも通常は3ヶ年継続するが、入札は毎年度の単年度事業となっている。企画競争ではなく価格競争もあるので、必ずしも落札出来るとは限らない。ということは当然、仕様が緩いと手抜きならぬ低品質の委託事業が中には存在するというわけだ。難しい問題。

（文責：青木栄二）